別記様式

議　　事　　録

会議の名称	令和５年度第２回岩倉市環境審議会
開催日時	令和６年１月 25 日（木）午後２時から午後３時 45 分まで
開催場所	市役所７階　会議室７
出席者 （欠席委員・説明者）	出席委員：山田会長、木ノ本委員、宮田委員、山本委員、若園委員、 花井委員、小笠原委員、渡辺委員、浅井委員、奥田委員 欠席委員：賀田野委員、三輪委員 説 明 者：建設部長、環境保全課長、都市計画課長、清掃事務所長、 環境グループ長、計画営繕グループ長、環境グループ主任
会議の議題	１　あいさつ ２　議題 （１）審議事項 ①一般廃棄物処理計画について〔資料１～３〕 ②地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について〔資料４〕 （２）報告事項 ①ゼロカーボンシティ推進プロジェクトについて〔資料５～６〕 ②小学校での保護樹の啓発活動について ３　その他
議事録の作成方法	■要点筆記　　□全文記録　　□その他
記載内容の確認方法	■会議の委員長の確認を得ている □出席した委員全員の確認を得ている □その他（　　）
会議に提出された 資料の名称	・第５次岩倉市一般廃棄物処理計画〈基本計画〉の概要〔資料１〕 ・第５次岩倉市一般廃棄物処理計画（案）〈基本計画〉〔資料２〕 ・第５次岩倉市一般廃棄物処理計画（案）〈資料編〉〔資料３〕 ・第４次岩倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）〔資料４〕 ・ゼロカーボンシティ推進プロジェクト事業について〔資料５〕 ・いわくらしゼロカーボンチャレンジシート〔資料６〕 ・保護樹・保護樹木って何？
公開・非公開の別	■公開　　□非公開
傍聴者数	０人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
１　あいさつ 建設部長・審議会会長あいさつ ２　議題 （１）審議事項 ①一般廃棄物処理計画について 事務局より説明。 ・第５次岩倉市一般廃棄物処理計画〈基本計画〉の概要〔資料１〕について質疑応答 山 田 会 長：改訂理由として、ごみの排出傾向や社会情勢などの変化を挙げているが、具体的にどんな変化があったのか。 事　務　局：資源化率が減少してきている。現計画の内容と乖離してきているため、改訂することとした。 山 田 会 長：資源化率が減少するというのは良い傾向なのか。 事　務　局：ごみが減少しているという見方をすれば良いことだが、本来資源として再利用されるべきものがされていないという見方もできる。 ・第５次岩倉市一般廃棄物処理計画（案）〈基本計画〉〔資料２〕について質疑応答 小笠原委員：12 ページに記載の羽毛ふとんと廃食用油について、分別収集に持っていってよいのか。 事　務　局：分別収集では受け取り出来ないので、e-ライフプラザに直接持ち込んでもらう必要がある。あるいは、清掃事務所で行う日曜資源回収でも出していただくことはできる。 小笠原委員：16 ページに、生ごみや樹木の剪定枝、落ち葉の資源化・堆肥化に向けた調査・研究とあるが、捨て方が変わるということか。 事　務　局：現在は燃えるごみで出してもらっているが、再利用が可能なものなので、捨て方の見直しを検討していきたい。 小笠原委員：今後変わる可能性があるということか。 事　務　局：ある。 小笠原委員：樹木の剪定枝については、チップにして再利用する方法があると聞いたことがあるがどうか。 事　務　局：小牧市が実際に取り組んでいるが、チップの利用先が少ないことや、収集や処理のコストが大きくかかることなど問題があると聞いている。より効果的な手立てがないか引き続き事例研究する。 山 本 委 員：再資源化については「燃えるごみ」という表現にも問題があると思う。「燃えるごみ」という表現では、燃やせそうなものはすべて燃えるごみでよいと市民に誤解を与える恐れがあるため、他の自治体では「燃やすごみ」と表現しているところもある。 また、事業者と一般家庭の区別を徹底してほしい。神社は事業者なのに区の分別回収に出しているところなどを見かけることがある。

事　務　局：ごみの捨て方に問題がある事業者については個別指導している。
山 本 委 員：個別指導だけでなく、事業者全体への周知・啓発を徹底してほしい。
木之本委員：ごみの捨て方について、誤った認識が広がっていっていると感じる。広報などを使って、正しいごみの捨て方なども周知してほしい。
事　務　局：検討する。
山 本 委 員：プラ容器など岩倉市と小牧市で同じ場所に持っていくのに、ごみの分別方法が異なることがあるのはなぜか。
事　務　局：小牧市と岩倉市でプラ容器の持込先が異なるため。

・第５次岩倉市一般廃棄物処理計画（案）〈資料編〉〔資料３〕について質疑応答
花 井 委 員：ごみの集団回収について、少子化により実施団体の子ども会が解散してしまう地域が出てきている。ごみの集団回収は子どもがごみと資源について学ぶ場でもあるため、存続できるような方法を考えてほしい。
事　務　局：今後の時代の流れに適応できるような方法を検討していきたい。ごみと資源の話については、小学校への出前講座も実施しているので、引き続き児童の環境意識向上に努めていく。

（２）報告事項
②小学校での保護樹の啓発活動について※
※他課による報告事項があったため、次第の順番を入れ替えて実施した。
都市整備課より説明。小学校２～３年生を対象。学校と相談した結果、令和６年度は北小、以降は１年に１校ずつ増やす予定。
渡 辺 委 員：まち探検にも使える良い資料だと思う。小学校では３年生を対象にした「わたしたちのまちいわくら」という副読本に掲載したり、QR コードを載せて調べられるようにしたりして、子どもの目に留まる機会を増やし、興味が向くような PR を続けてほしい。
山 田 会 長：全校一斉に始めることはできないか。
事　務　局：学校側からの要望で、生徒数が最も多い北小学校から始め、以降他の小学校に広げていくこととなっている。
奥 田 委 員：デザインを子どもたちの目線に立って、より興味が向くようにしてほしい。
木之本委員：最初は北小学校のみに配布するのか。
事　務　局：北小学校のみに配布する。
木之本委員：配られない他の学校では、この資料を見ることなく卒業してしまう児童が出てきてしまうため、広報等でも展開して、多くの児童の目に届くようにしてほしい。

（１）審議事項
②地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について
事務局より説明。
浅 井 委 員：削減目標の 51%について、国の目標に合わせて本市も同様の目標で取り組むということか。

事　務　局：そのとおり。

浅 井 委 員：51％減という目標設置は、岩倉市の実情から見て達成困難度はどれほどか。

事　務　局：高い目標設定であると考えている。公共施設において取り組むことができる CO2 削減の取組は限られているため、例えば来年度に計画している公共施設の LED 化など、実施できる取組について削減効果を検証しながら、目標達成に向けて進めていきたい。

山 田 会 長：現在の CO_2 排出量はいくらか。

事　務　局：直近、令和４年度の排出量は 3,749t-CO_2 であり、2030 年度までに 1,796t-CO_2 以下にすることが目標。

山 田 会 長：基準年度の平成 25 年度の排出量が 3,665t-CO_2、令和 4 年度は 3,749t-CO_2 であるが、排出量増加の理由は。

事　務　局：平成 28 年度に給食センターの建て替えを行っており、環境に配慮した設備を導入しているが、以前の給食センターよりも規模を大きくしたため、結果として CO_2 排出量が増加した。

今後も、公共施設の大規模改修や設備の導入等により排出量が増加する可能性がある。公共施設の LED 化など CO_2 を削減する取組と比較して、どれだけ目標に近づけるかが課題。

山 本 委 員：基準年度から現在までの排出量の推移をみても、51％減という目標設定は高すぎるのではないか。

奥 田 委 員：2030 年度までの計画であるので、定期的に目標の達成状況を確認するとともに、今後の Co_2 排出量削減が期待できる取組と照らしあわせて、その実現可能性について議論すればよいのではないか。

山 田 会 長：公共施設が対象の目標であり、財源にも限りがある。節電等の削減の取組に重点を置くあまり、市民サービスが低下するのは良くないと思うので、市民サービスとのバランスを見ながら、削減策に取り組んでもらいたい。

山 田 会 長：前回の計画時の目標はどうだったのか。

事　務　局：目標年度の排出量を、基準年度の排出量以下にするというのが目標だった。

山 田 会 長：市役所の CO_2 排出量削減の取組を通じて、市民の環境意識を高めてもらうということも重要であると思うので、数値目標だけでなく、市民への周知・啓発もしっかりと行ってほしい。

花 井 委 員：５ページに次世代自動車の導入を進めるとの記述があり、来年度公共施設に EV 用充電設備を設置すると聞いているが、一般の市民への次世代自動車の普及促進も重要と考えるので、市役所内だけにとどまらず、外部へ取組を広げていかなければいけないのではないか。

事　務　局：市内公共施設に EV 用充電設備を設置する取組は、一般市民の EV 導入につながるもので、設置した際には PR に努める。また、次世代自動車の普及促進という観点では、広報３月号（令和６年）において、次世代自動車の特集記事を掲載する予定。記事内で国や市が行っている補助制度についても周知していく。

山 本 委 員：7 ページに記載があるように PDCA サイクルをしっかりと回してもらうとともに、温室効果ガス排出量の進捗状況については、広報でも公表してほしい。

事　務　局：広報・ホームページで掲載していく。

（２）報告事項

①ゼロカーボンシティ推進プロジェクトについて

事務局より説明。

浅 井 委 員：来年度以降の取組のゼロカーボンチャレンジ事業について、全項目達成者の中から抽選で景品を贈呈するとなると、途中で全項目達成できなくなった段階で取り組むのをやめてしまう人が出てくると思われる。より多くの人に長く取り組んでもらうことを考えると、条件を見直してはどうか。

事　務　局：応募要件をどのようにするか等については、現在プロジェクトチームで検討しており、より多くの人に長い時間取り組んでもらえるような制度設計にしていく。

３　その他

・事務局から、今年度の会議は本日が最後であるが、委員の任期は令和６年４月 30 日までであることを連絡した。

会　長：他に報告事項などないため、会議を終了する。